Weekly ウィークリー オイル マーケット レビュー
Oil Market Review 24第39号
2025年（令和七年） 1月17日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
電 話 （03）3534-7411（代）
F A X （03）3534-7422
〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ10階
ホームページ https://oil-info.ieej.or.jp

■ 概況

当週（1月9日～1月15日）の国際石油市場は、米欧による対ロ経済制裁強化の動き、米欧における寒波襲来、好調を続ける米国経済、カリフォルニア森林火災への懸念などにより、予想外の堅調を示した。

NYのWTI原油先物市場は、9日、反発の73.92ドルで始まったが、14日に反落するまで、続伸を続け、15日には反発の80.04ドルと、昨年8月以来の80ドル台を回復した。

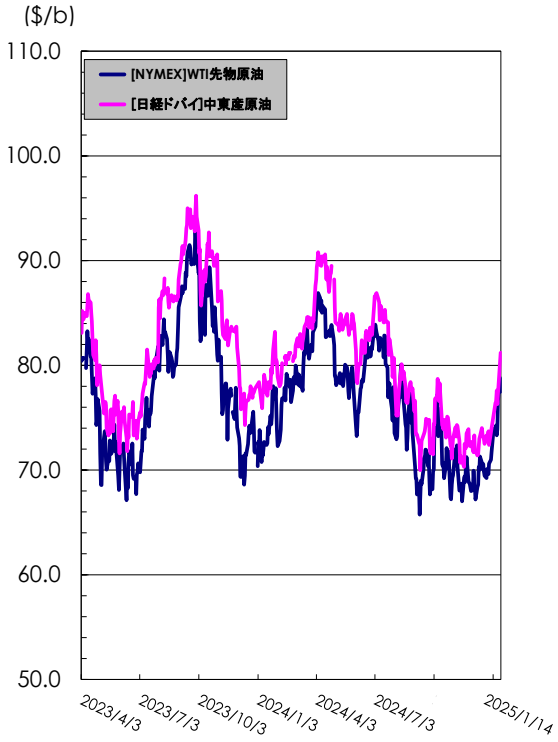
また、中東産ドバイ原油/東京市場（2月渡し）も、前週（12月26日～1月8日）は72.40～77.60ドルの範囲で推移したが、当週は、1月9日76.30ドル、10日77.30ドル、14日81.20ドル、15日81.70ドルだった。

対ドル為替レート（TTM）は前週（12月26日～1月8日）157.43～158.22円の範囲で推移したが、当週は、1月9日158.43円、10日158.18円、14日157.57円、15日158.08円だった。

財務省が1月10日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、12月中旬の原油輸入平均CIF価格72,559円で前旬比2,259円安、ドル建て76.36ドルで前旬比0.89ドル安、為替レートは1ドル/151.08円。

そのような中で、1月14日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.1円高、軽油も同0.1円高、灯油は同2円高（18リットルベース）、ガソリンの全国平均価格は180.7円となった。1月16日～22日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は補助金支給率の縮小により、16.5円（補助金がない場合の次週予想価格201.5円で、185円を超える補助率100%支給部分は16.5円）と、実額ベースでは前週比0.9円の減額となった。

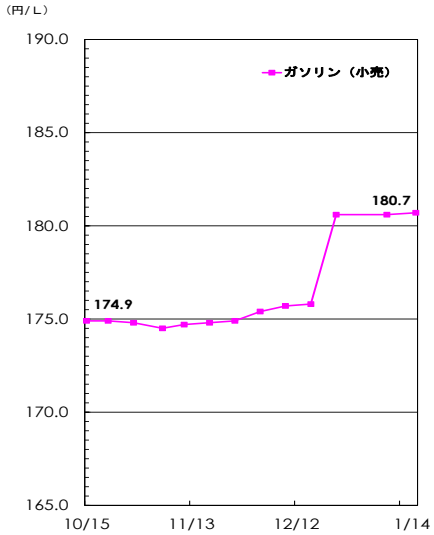
原油			今週		前週比	前年比
需給	原油処理量	（千kl）	1/5 ～ 1/11	2,909	▲ 115	▲ －
	トッパー稼働率	（%）	〃	84.0	▲ 3.3	▲ －
	原油在庫量	（千kl）	1/11	9,868	▼ -726	▼ －
価格	中東産原油（日経ドバイ）	（$/bbl）	1/14	81.20	▲ 4.80	▲ 3.2
	WTI先物原油（NYMEX）	（$/bbl）	1/13	78.82	▲ 5.26	▲ 6.4
	原油CIF単価	（$/bbl）	12月中旬	76.36	▼ -0.89	▼ -13.94
	①原油CIF単価	（¥/kl）	〃	72,559	▼ -2,259	▼ -10,995
	②ドル換算レート	（¥/$）	〃	151.08	▲ 2.89	▼ -3.98
	外国為替TTSレート	（¥/$）	1/14	158.57	▲ 0.16	▼ -12.40



（単位：千kl、円/㍑）

ガソリン			今週		前週比	前年比
需給	在庫		1/11	1,850	▲ 94	▲ －
価格	先物［期近物/終値］	（TOCOM/東京湾）	1/7 ～ 1/13	83.0	➡ 0.0	▲ 2.0
		（TOCOM/中部）	1/10	86.0	➡ 0.0	▲ 8.0
	小売［週動向］	（資エ庁公表）	1/14	180.7	▲ 0.1	▲ 5.4

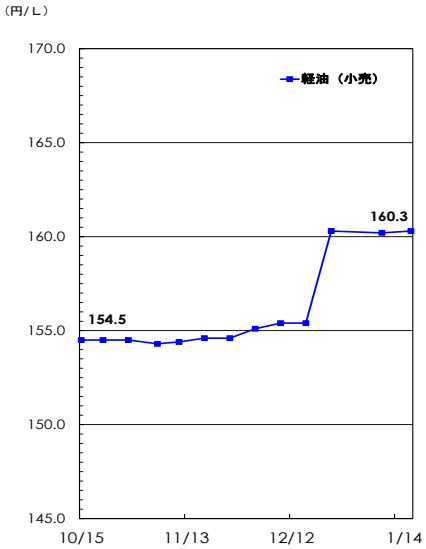
※先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㍑）

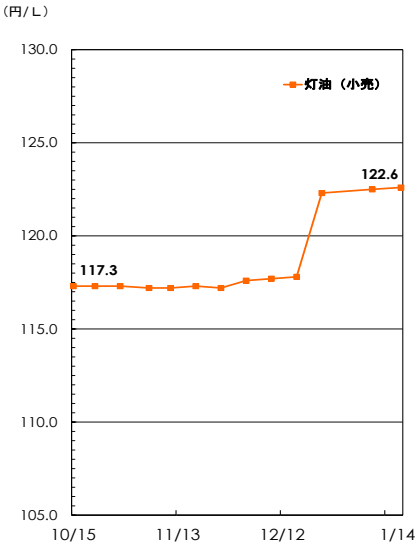
軽油			今週		前週比	前年比
需給	在庫		1/11	1,623	▲ 49	▲ －
価格	先物［期近物/終値］	（TOCOM/東京湾）	1/7 ～ 1/13	87.0	▲ 1.0	▲ 2.8
		（TOCOM/中部）	1/10	－	－	－
	小売［週動向］	（資エ庁公表）	1/14	160.3	▲ 0.1	▲ 5.4

※先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㍑）

灯油			今週		前週比	前年比
需給	在庫		1/11	2,088	▼ -171	▼ －
価格	先物［期近物/終値］	（TOCOM/東京湾）	1/7 ～ 1/13	84.0	➡ 0.0	▲ 1.5
		（TOCOM/中部）	1/10	89.0	➡ 0.0	▲ 9.0
	小売［週動向］	（資エ庁公表）	1/14	122.6	▲ 0.1	▲ 5.8



■ 関連情報

1　海外/原油（WTI原油先物市場）

前週（12月26日～1月8日）のNYMEX・WTI先物市場は69.82～74.25ドルの範囲で推移した。

当週、1月9日は、米国のテキサス州からバージニア州を中心とする北半球地域の厳冬予想を反映して、暖房油消費拡大の期待から反発した。ただ、米金融幹部から利下げに対する慎重発言、ドル高に伴う原油先物の割高感があったことから、上値は重かった。2月物終値は前日比0.60ドル高の73.92ドル。

週末10日は、米英両政府による、制裁対象の拡大・石油闇貿易に従事する「影の船団」の摘発強化を含む、対ロ経済制裁の強化、米国の雇用統計の好調維持、カリフォルニア森林火災の復興需要への期待から、大幅に続伸、節目の75ドルを超えた。2月物終値は同2.65ドル高の76.57ドル。

週明け13日は、米英両国政府がロシアの戦費調達阻害を意図して経済制裁強化を検討中、石油の闇貿易に従事する「影の船団」に属するタンカー162隻を含めて、摘発に乗り出したことで、3営業日続伸、昨年8月半ば以来約5か月ぶりの高値だった。2月物終値は同2.25ドル高の78.82ドル。

14日は、バイデン大統領がイスラエル・ハマスの停戦合意が近いと発言するなど、停戦期待が高まり、緊張が緩和したことに加え、前日の昨年8月以来の高値による利益確定売りも多く、4営業日ぶりに反落した。また、エネルギー情報局（EIA）は、この日発表の短期見通しで、2025年の石油需給の緩和予測を発表した。2月物終値は同1.32ドル安の77.50ドル。

15日は、米英の対ロシア経済制裁強化、国際エネルギー機関（IEA）のロシア生産の頭打ち観測、為替市場のドル安進行に伴う原油先物の割安感、IEAの2025年の需要予測の上方修正、等を受け、大幅に反発、80ドル台を回復した。ただ、米国の原油在庫の8週連続の減少報告もあり、上値を削った。2月終値は同2.54ドル高の80.04ドル。

2　海外/米国石油市場

1月15日発表の10日時点の米国石油在庫週報は、原油在庫が200万バレル減と市場予想（100万バレル減）を上回り、8週連続の在庫取り崩し、4億1270万バレルと、22年4月以来の低水準となった。一方、ガソリン・中間留分在庫はそれぞれ590万バレル増・310万バレル増と積み増しであった。

EIAによると、1月13日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比0.4セント安の1ガロン3.043ドル（127.8円/㍑）と2週ぶりの値下がりで、ディーゼル小売価格は、前週比4.1セント高の1ガロン3.602ドル（151.3円/㍑）と3週連続の値上がり。

ベーカーヒューズ社によると、1月10日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比2基減の480基となった。

3　国内/原油処理量

石連週報によれば、2025年1月5日～11日に休止したトッパー能力は17.3万バレル/日で、前週に対して横ばい（全処理能力は311万バレル/日）。

原油処理量は290.9万klと、前週に比べ11.5万kl増加。前年に対しては0.9万klの増加。トッパー稼働率は84%と前週に対して3.3ポイントの増加、前年に対しては3.3ポイントの増加となった。

4　国内/製品在庫量

1月11日時点の在庫は、ガソリン、軽油、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは185万kl、前週差9.4万kl増。前年に対しては2.5万kl多い。

灯油は208.8万kl、前週差17.1万kl減。前年に対しては22.7万kl少ない。

軽油は162.3万kl、前週差4.9万kl増。前年に対しては1.2万kl多い。

A重油は76.5万kl、前週差3.3万kl減。前年に対しては2.7万kl多い。

C重油は171.8万kl、前週差3.5万kl増。前年に対しては18万kl少ない。

（単位：千KL）

	今週 (1/11)	前週 (1/4)	前週比	
ガソリン	1,850	1,756	▲ 94	(5%)
ジェット燃料	735	782	▼ -47	(-6%)
灯油	2,088	2,259	▼ -171	(-8%)
軽油	1,623	1,574	▲ 49	(3%)
A重油	765	798	▼ -33	(-4%)
C重油	1,718	1,683	▲ 35	(2%)
合　計	8,779	8,852	▼ -73	(-0.8%)

5　国内/元売会社製品卸価格

1月7日～13日のドル建て中東原油価格は前週比値上がりし、為替レートも円安が進み、元売会社の卸建値は値上がりしたものと見られる。1月16日からの補助金は5.1円相当の補助率が削減（30%）されることから、1/16～1/22の実質卸価格は値上がりとなる模様。

6　国内/製品小売価格

1月14日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円高の180.7円、軽油も同0.1円高の160.3円、灯油は18㍑ベースで同2円高の2,207円（1㍑ベースでは0.1円高の122.6円）。ガソリンは2週ぶりの値上がり、軽油も2週ぶりの値上がり、灯油は6週連続の値上がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが21道県、横ばいは4県、値下がりは22都府県だった。全国最安値は岩手県の174.1円、その次は愛知県の174.7円であった。他方、最高値は長野県の190.6円。最も値上がりしたのは島根県（同1.1円高）、最も値下がりしたのは京都府（同0.9円安）だった。

次回調査時（1/20）のガソリンの小売価格は、値上がりが予想される。

（単位：円/㍑）

（資エ庁公表）[週動向]		今週　(1/14)	前週　(1/6)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	180.7	180.6	▲ 0.1	23/9/4	186.5
	灯油	122.6	122.5	▲ 0.1	08/8/11	132.1
	軽油	160.3	160.2	▲ 0.1	08/8/4	167.4

※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ（https://oil-info.ieej.or.jp）に掲載しています。
次回（2024第40号）の公表は、1/24（金）14:00 です。

2024年12月より石連週報の公表内容の見直しがあり、「3.国内/製品出荷量」の項目・内容を変更しました。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈 石連週報 〉
石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

②【原油価格】〈 WTI先物原油、中東産原油 〉
WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange：NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場（取引の中心限月）の午後の中値を採用。 ※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。
為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】
元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉
約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資エ庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14：00に公表（資源エネルギー庁ーHPに掲載）。